

## 眼疾患とフレイルの関連の研究

### 1. 研究の対象

対象は当院眼科外来及び眼科病棟に受診した眼疾患患者のうち、60歳以上の方です。

### 2. 研究目的・方法

眼疾患を合併する高齢者におけるフレイル、プレフレイルの頻度とそれに関連する因子を検討するとともに、逆にフレイル、プレフレイルが眼疾患の病態や治療に与える影響についても検討することを目的とします。研究期間は2025年3月31日までとします。

### 3. 研究に用いる試料・情報の種類

当院眼科外来および西7階病棟受診の60歳以上の眼疾患患者を対象として、病名、人口統計データ（年齢、性別）、一般眼科検査（矯正視力、屈折、眼圧、細隙灯顕微鏡検査、眼底写真）、視野検査および隅角検査（緑内障の場合）、OCT（緑内障及び網膜疾患の場合）の結果をカルテより収集します。フレイルの評価は、J-CHS基準に基づき体重減少・筋力低下・疲労感・歩行速度・身体活動の5項目で評価しますが、筋力は電子握力計で、その他の4項目は問診票にて評価します。また、問診・調査票により婚姻、糖尿病の有無、使用薬剤、教育、転倒、喫煙、うつ（GDS15）、認知機能（MMSE）、基本的ADL（Barthel index）、手段的ADL（Lawtonの尺度）の情報も収集します。さらに、病棟入院患者においては、問診および点眼指導データより、病気に対する知識および治療に対するアドヒアランス評価の結果も収集します。集積した情報を元に、フレイル及びプレフレイルの有無と眼疾患のタイプ、重症度パラメータ（視力、眼圧、視野感度、OCTパラメータなど）との相関を検討します。さらに、フレイル、プレフレイルの有無と病識、治療アドヒアランスとの相関についても検討する。研究の進行に伴い、研究を開始した時点の眼疾患、フレイルの状態と、その後の眼疾患、フレイルの進行（悪化）との相関も検討します。

### 4. お問い合わせ先

研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせください。

また、情報が当該研究に用いられることについてご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者様に不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：大阪大学大学院医学系研究科 眼科学

講座 三木篤也 吹田市山田丘 2-2

06-6879-3456

当院の研究責任者:大阪大学大学院医学系研究科眼科学講座教授 西田 幸二